



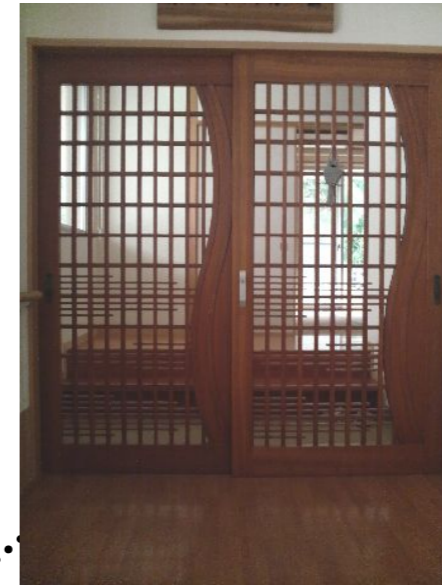
特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷
聴覚障害関連（建築）解説



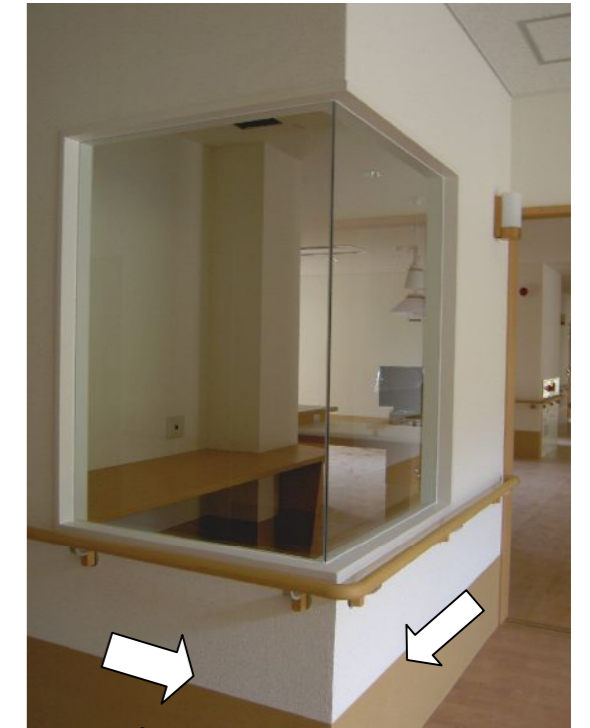
各ユニットのキッチン、リビング・ダイニングと向かい合わせること、コミュニケーション（手話）時、聴覚障害者同士が顔を合わせられるようにしています



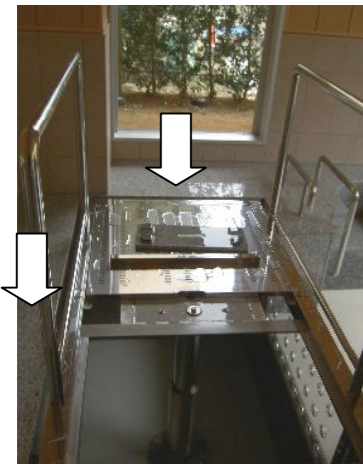
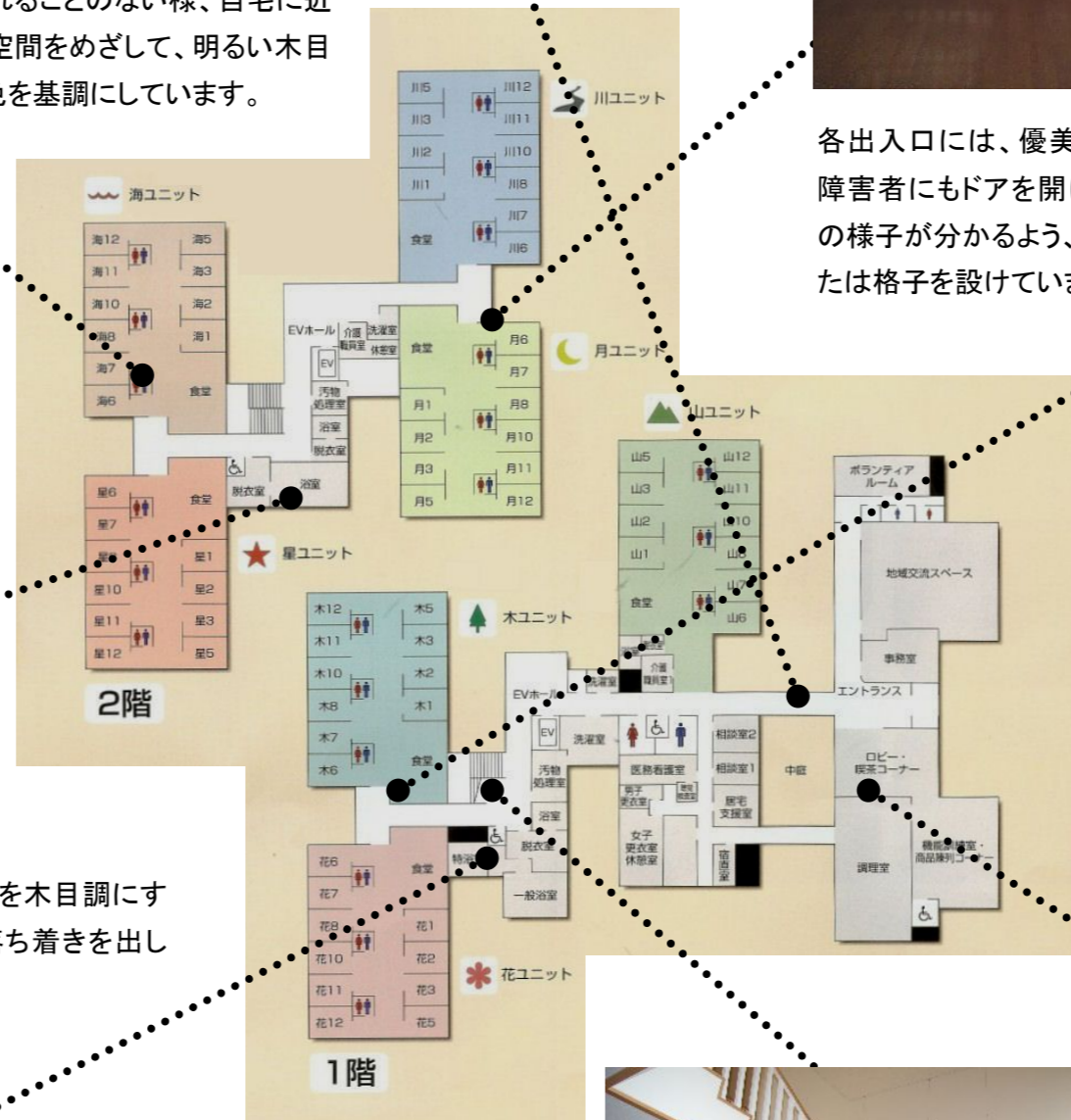
インテリアは、これまでの生活とはかけ離れることのない様、自宅に近い生活空間をめざして、明るい木目調と白色を基調にしています。



各出入口には、優美さを兼ね聴覚障害者にもドアを開けたとき向こうの様子が分かるよう、建具に小窓または格子を設けています。



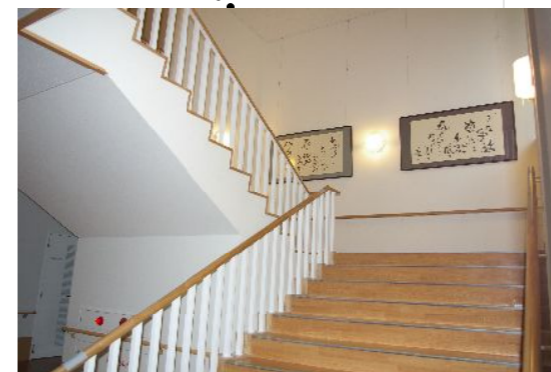
各ユニット玄関付近の介護職員コーナーには、壁の隅にガラスを設けています。これは、①動線が交差するところには、お互いが見えることで、衝突を避けられる。（聴覚障害者には見えないところからの足音が聞こえない）②夜勤は2ユニットで1人の介護職員が対応するため、向かい側のユニットの様子に注意を向けられる。ということです。



浴室のリフトには介護職員が、湯の中に浸かる聴覚障害者と会話ができるようにと、左側と窓側に介護職員が立ち入られるスペースを設けています。



浴室には壁を木目調にすることで、落ち着きを出しています。



階段踊り場で足音の聞こえない聴覚障害者同士がぶつからないよう、中央手すりには壁を設けず格子にして上・下からの様子が見えるようにしています。



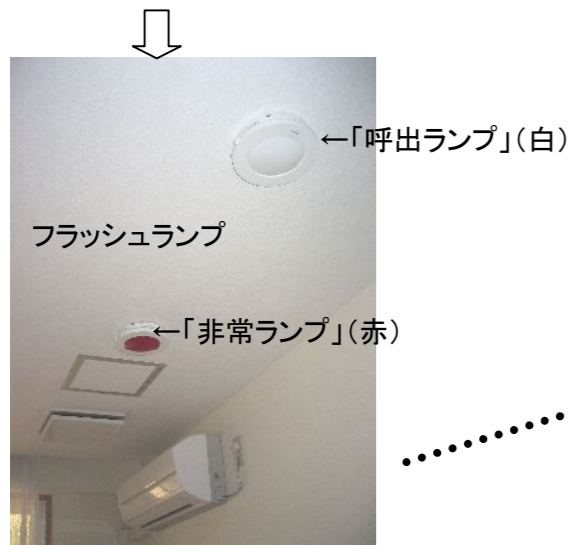
ロビーにある喫茶コーナーにはお互いに顔を合わせてまた、手話で会話出来るよう、カウンターを直線ではなく曲線にしています。



特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷 聴覚障害関連（設備）解説



個室入口の表札の上にあるものは、視覚的に分かる「ナースコールランプ」、下にあるものは、「呼出ランプ」で個室には呼出チャイムと共にフラッシュランプが光ります。



各室天井には視覚的に分かるよう「呼出ランプ」と「非常ランプ」を取り付けています。



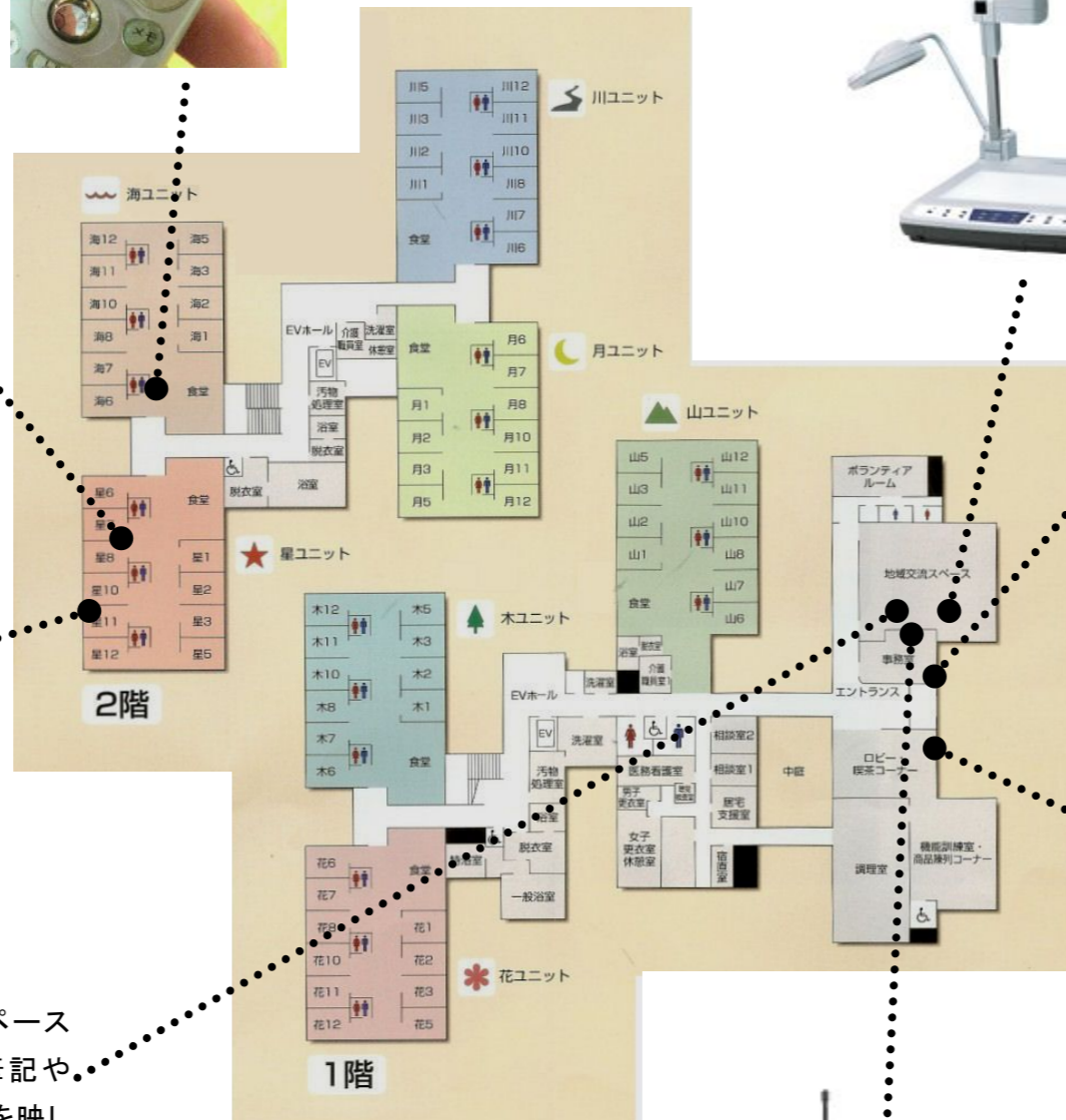
ナースコール用PHSには、聴覚障害者の職員にも分かるよう、呼出には振動が付いています。



書画カメラは、文字や画像を各ユニットのテレビに映し出すことができます。またこのカメラで人を映し出し、手話で全館へ動画放送をすることもできます。



事務室には、視覚的に電話相手の顔が見える形で直接会話ができるよう、「テレビ電話」を設置しています。



ロビーや各ユニットにあるテレビは一般番組の他に“目で聞くテレビ”や“ふくろうチャンネル”にも見ることが出来ますし、非常時には強制的に下のような赤い画面に切り替わり、同時に天井のフラッシュランプが点滅して異常発生を知らせます。



地域交流スペースには、要約筆記や、DVD、ビデオを映し出すためのスクリーンや天井プロジェクターが設置されています。

地域交流スペースには、補聴器で雑音なしに聞き取れるよう「磁気ループ」と「磁気ループアンプ」を設けています。

